

# 奈良・西大寺旧境内

1 所在地 奈良市西大寺南町

2 調査期間 第一四次調査 二〇〇二年(平14)九月～十二月

3 発掘機関 奈良市教育委員会

4 調査担当者 松浦五輪美・宮崎正裕・池田富貴子

5 遺跡の種類 都城跡・寺院跡

6 遺跡の年代 奈良時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

調査地は平城京右京一条三坊四坪の北東隅にあたり、奈良時代後半には西大寺の境内地となる。北西から南東へ傾斜する緩斜面上に



(奈良)

位置し、旧境内の東を限る西二坊大路、及び三・四坪坪境小路に面する。調査区は南北四〇m東西二五mの一〇〇〇㎡である。

検出した遺構には、奈良時代から平安時代の掘立柱塀九条、建物一七棟、井戸八基、溝、土坑がある。重

複関係から三時期以上の変遷が考えられる。発掘区北端で検出した東西方向の溝は、溝心の位置と重複関係から、三・四坪坪境小路南側溝、または築地雨落溝の可能性がある。

木簡は発掘区南西部の井戸SE〇二の枠内から一点出土した。SE〇二は井戸枠が残る三基の井戸の一つで、掘形の平面は東西一・九五m南北一・七五mの隅丸方形、枠の構造は方形縦板組隅柱横棧留で、横棧が三段分残る。枠の内法は〇・八m×〇・七五m、検出面からの深さは二・四mである。

共伴遺物には土師器・須恵器がある。食器類・甕などの他、須恵器には完形の横瓶・壺がある。時期は奈良時代後半頃と思われるが、詳細は整理・検討中である。墨書土器も数点出土した。墨書土器はSE〇二以外の井戸からも数点出土している。

## 8 木簡の釈文・内容

(1)



091

三文字確認できるが判読できない。なお、釈読・写真撮影にあたっては、奈良文化財研究所史料調査室のご教示とご協力を得た。

(池田富貴子)

